

ご使用のまえに

「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、ご使用される方や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

- △記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は、感電注意が描かれています。
- ⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。左図の場合は、分解禁止が描かれています。
- 記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「サポートマニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保管してください。

警告

- 自動車などの運転中は無線機を操作しないでください。安全運転の妨げとなり、事故の原因となります。
- 当社指定の電源電圧以外で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

警告

- タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。
- 当社指定の電源ケーブル以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。また、分解・改造を行った機器を使用すると法律違反（電波法違反）となります。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源を切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、無線機の内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、異物が無線機の内部に入った場合は、まず機器本体の電源を切って販売店にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、無線機を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源を切って販売店にお問い合わせください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 濡れた手で電源コネクタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- この無線機は防水構造になっておりません。無線機を水で濡らしたり、水につけたり、水道やシャワーなどの水流を直接かけることはしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 無線機の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

警告

- 端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。
- 近くに雷が発生したときは、電源コネクタを抜いてください。また、屋外にアンテナが設置されているときは、アンテナコネクタをはずしてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。
- 送信中にアンテナに触れないでください。やけど・けがの原因となります。
- 機器で指定されていないヒューズは使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源コードが傷んだら販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードがこの機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

注意

- この無線機は、国内仕様です。国外では使用できませんのでご注意ください。
- 航空機内や病院などの使用を禁止された場所では、この機器の電源を切ってください。電子機器や医療機器に影響を及ぼす恐れがあります。
- お手入れの際は安全のため電源を切ってください。また、アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤を含んだ布で拭かないでください。
- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。

注意

- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源コネクタを抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コネクタを抜くときは、必ずコネクタを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。
- 使用中は機器が熱を持ちますが、故障ではありません。

お願い

- 通信は無線局免許状に記載されている目的・通信の相手方および通信事項の範囲内で行ってください。
- 1回の送信時間は5分を越えないでください。
- 使用する前には、必ず無線機が正常動作するか、電源電圧などは正常か確認してください。無線機の故障による事故の責任は負いかねます。
- 通信可能範囲は地形および電波状況によって異なります。必ず通信可能範囲でご使用ください。通信不可能状態での事故の責任は負いかねます。

wave CSR

デジタル/アナログ一般業務用無線機
(総務省技術基準適合品)

GX5570VJF121
(VHF帯基地局 / 移動局)

GX5570UJF181
(UHF帯基地局 / 移動局)

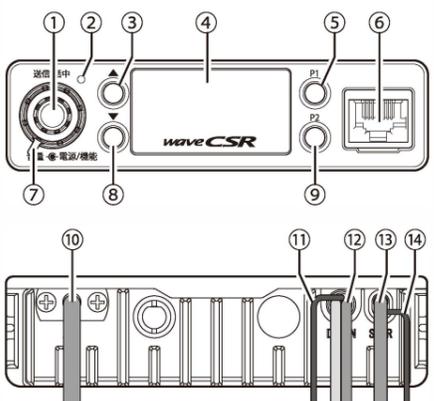
GX5570UJF121
(UHF帯基地局 / 移動局)

簡易取扱説明書

株式会社 CSR

〒252-0303
神奈川県相模原市南区相模大野5丁目33番4号
当社の最新情報をインターネット上で閲覧できます。
<http://www.kcsr.co.jp/>

各部の名称と動作説明



- ①ロータリースイッチ
- このスイッチを押して、電源の入・切を行います。
 - このつまみを右(時計方向)に回すと、チャンネルがアップします。
 - このつまみを左(反時計方向)に回すと、チャンネルがダウンします。

- ②送信/話中LED (TX/BUSY LED)
- 送信中のときは、赤色が点灯します。
 - 受信すると、緑色に点灯します。
- ③▲ボタン
- このボタンを押すとチャンネルがアップします。
 - このボタンを長押しすると、スケルチ変更モードになります。
 - 設定モードで、このボタンを押すと設定内容の切り替え、数値の変更を行うことができます。
- ④表示部
- 詳細は、本ページの「表示部」をご覧ください。
- ⑤P1 ボタン
- このボタンを押すと録音の有る場合はボイスメッセージを再生します。
 - このボタンを押しながら、電源を入れると設定モード(呼出設定・機能設定)になります。
 - 設定ツールでキー割付を変更することができます。
- ⑥モジュラージャック
- マイク&スピーカー (CMP500) またはスタンドマイク (CSM500) を接続します。
- ⑦音量つまみ
- このつまみを右(時計方向)に回すと音が大きくなります。
 - このつまみを左(反時計方向)に回すと音が小さくなります。
- ⑧▼ボタン
- このボタンを押すとチャンネルがダウンします。
 - このボタンを長押しすると、キーロックになります。
 - 設定モードで、このボタンを押すと設定内容の切り替え、数値の変更を行うことができます。
- ⑨P2 ボタン
- このボタンを押すと、ユーザーコード設定モードになります。
 - 設定モードで、このボタンを押すと設定内容・数値の決定、項目の変更を行うことができます。
 - 設定ツールでキー割付を変更することができます。

- ⑩アンテナケーブル
- 指定のアンテナを取り付けます。指定のアンテナ以外は使用しないでください。指定のアンテナにつきましては、販売店にお問い合わせください。
- ⑪接地用ケーブル
- ⑫電源ケーブル
- 直流(DC) 12V系または24V系の電源と接続します。これ以外の電源には絶対に接続しないでください。
- ⑬外部スピーカー用ケーブル
- 外部スピーカーケーブルを接続します。(Φ3.5ジャック使用)
 - 外部スピーカーは、8Ω以上のものをお使いください。
- ⑭エマージェンシー (EMG) 用ケーブル
- エマージェンシー用スイッチを接続します。スイッチの接続に関しましては、お買い上げになった販売店にお問い合わせください。

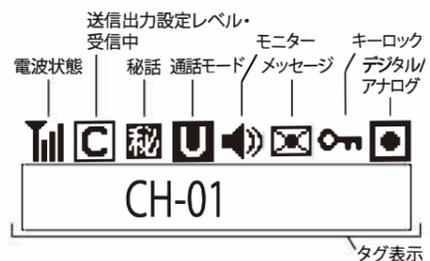
本体付属品

品名	数量	備考
本体取付金具	1	
本体取付金具用ビス大	4	M5×15
ワッシャー	4	5.0×12.0×t0.8
ナット	4	M5
タッピングビス	4	4×10
マイクフック	1	
タッピングビス	2	3×10
交換用ヒューズ	2	250V/5A
DC電源ケーブル	1	約3m、5Aヒューズ×2付き
マイク&スピーカー	1	CMP500
簡易取扱説明書	1	本書
保証書	1	

■オプション

業務用電源 (PS500JA)、スタンドマイク (CSM500)、マイク&スピーカー (CMP500)、外部スピーカー (CSK500)

表示部



表示の名称	表示の意味と動作
電波状態	受信信号強度を4段階で表示します。
送信出力設定レベル	送信出力設定レベルをH/Lの2段階で表示します。受信時は接続中にCが表示されます。
送信中	送信中を表示します。
秘話	秘話通話設定中に表示されます。
通話モード	通話モードを表示します。 U: ユーザーコード通話 個: 個別通話で個別呼び出し時に表示 G: 個別通話でグループ呼び出し時に表示 全: 個別通話で一斉呼び出し時に表示
モニター	モニター機能設定時に表示します。
メッセージ	ショートメッセージを受信時に表示します。
キーロック	キーロック中に表示します。
デジタル/アナログ	チャンネルのデジタルまたはアナログを表示します。 ☐: デジタルチャンネル ⊙: アナログチャンネル
タグ表示	全角6文字、半角英数字12文字まで表示されます。タグ表示を設定していない場合は、チャンネル番号"CH-01"を表示します。タグ表示の設定は、設定ソフトを使用します。

無線局免許が必要です

本機をお使いになる前に、総務省総合通信局への無線局免許申請が必要です。免許申請を行って、無線局免許状がお手元に届いてからご使用ください。

●無線局開設後は、電波利用料の納付が必要となります。総務省からの納入告知書に従って、期限内に納付してください。

無線局の免許申請手続きや開設届をしていない、海上や上空で使用する、指定以外のアンテナを使うといった行為は不法無線局の開設となり、1年以下の懲役または100万円以下の罰金に処せられますのでご注意ください。

●本製品は、日本国内における陸上で運用する無線局です。上空および海上で運用すると違法運用となります。
●アンテナは指定のものをお使いください。指定以外のアンテナを使用すると違法運用となります。指定のアンテナにつきましては、サポートマニュアルをご参照ください。

音声圧縮(符号化)について

本製品は米国DVI社が開発したAMBE (Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用し、AMBE+2™に対応しています。

The AMBE+2™ voice compression software included in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. The user of this software is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the object code, or in any other way convert the object code into a human-readable form. This software is licensed solely for use within this product. US Patent Nos. #8,359,197, #8,200,497, #6,912,495, #6,199,037, #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,715,365, #5,701,390, #5,649,050, #5,630,011, and #5,517,511.

本書に記載されている会社名、システム名、製品名は各社の登録商標または商標です。

取付の注意

本機の据え付け場所を決定する際には、次の点に注意してください。

- ストーブ、スチーム、ヒーター等の発熱体の近くや日光の直射を受ける場所は避けてください。
- 極度な振動・衝撃を受けやすい場所は避けてください。
- アンテナ同軸ケーブル、その他のケーブルの配線が容易な場所を選んでください。
- 操作のしやすい場所を選んでください。
- 振動に充分耐えるようしっかりと固定してください。
- 電源ケーブルは赤線を+極に、黒線を-極(アース)に接続してください。
- 本機の送信電波が端末機器に影響を与える場合があります。このような時は、端末機器に影響を受けない距離までアンテナを離してください。

保証・アフターサービス

【保証書(別添)】

この製品には、保証書を(別添)添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

【保証期間】

本体保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

【保証用性能部品の最低保有期限】

弊社はこの本製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年保有しています。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

【修理に関する相談窓口】

修理に関するご相談ならびに不明な点はお買い上げの販売店へお問い合わせください。

CSRカスタマーサポート

0120-973-698

e-mail: lecuo_support@kcsr.co.jp

ご相談受付時間

9:00 ~ 17:00

(土日祝日を除く)

マイク&スピーカーとの接続方法

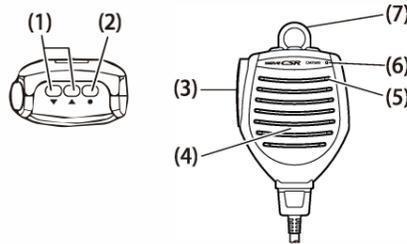
付属のマイク&スピーカー(CMP500)をモジュラージャックへ接続します。



マイク&スピーカー(CMP500)

注意

- マイク&スピーカー(CMP500)は、本機専用です。他の機種には接続しないでください。マイク&スピーカー(CMP500)を他の機種に接続すると、マイク&スピーカー(CMP500)を破損するおそれがあります。



(1)音量アップ・ダウンキー

- 音量ダウンキー(▼)を押すと、音量が小さくなります。音量アップキー(▲)を押すと、音量が大きくなります。

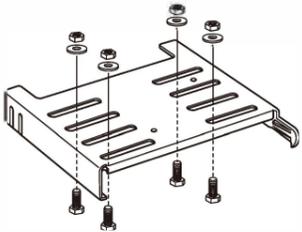
お願い

- マイク&スピーカーを使つての音量調整は、電源を切ると解除されます。音量を固定したい場合は、音量ツマミで行ってください。

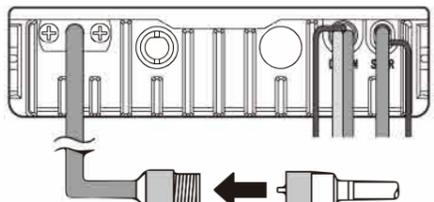
取付方法

本体の取付方法

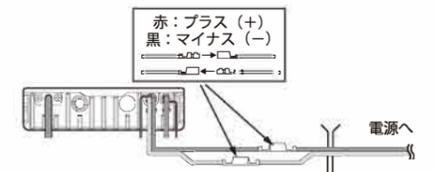
- 1 付属している本体取付金具と本体取付金具用ビス一式を用意します。
- 2 本機を取り付けたい場所に金具の位置に合わせて、穴を開けます。
- 3 本体取付金具用ビス一式のビスとナットまたはセルフタップネジでネジ止めします。



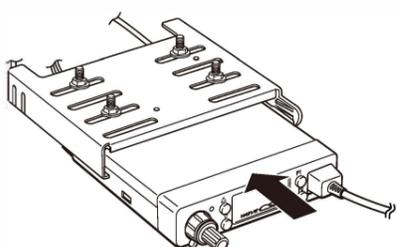
- 4 アンテナ同軸ケーブルを接続します。



- 5 本体電源ケーブルとバッテリー側電源ケーブルを接続します。電源ケーブルは赤線を+極に、黒線を-極(アース)に接続してください。



- 6 本体を取付金具に取り付けます。



基本の操作

起動と待受および受信

- 1 ロータリースイッチを押すと電源が入ります。表示部が点灯します。



- 2 音量ツマミを半分くらい回します。



- 3 信号が入ると話中表示(緑色)が点灯することを確認します。



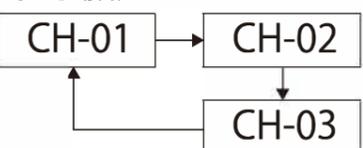
4 チャンネルの変更

- 複数のチャンネルが設定されている場合、チャンネルの変更が行えます。

- 1) ロータリースイッチを右(時計方向)に回す、または▲ボタンを押すとチャンネルがアップします。



(例: 3つのチャンネルが設定されている場合)



- 2) ロータリースイッチを左(反時計方向)に回す、または▼ボタンを押すとチャンネルがダウンします。



アドバイス

- チャンネル番号が異なると通話できません。相手局の了解を得てからチャンネルの変更を行ってください。

キーロックの方法

- 1 ロータリースイッチを押して、電源を入れます。



- 2 ▼ボタンを長押しします。



- 「」(キーロックマーク)が表示され、キーロックが働きます。
- 本体の音量ツマミおよびマイク&スピーカー(CMP500)のプレスキーは、キーロック中でも使用できます。

- 3 キーロックを解除するには、▼ボタンを長押しします。



- 「」(キーロックマーク)が消え、キーロックが解除されます。

(2)モニターキー

- 通話状況がモニターできます。
- 1回押下でモニター動作ONになります。再度、押下するとモニター動作OFFになります。

(3)プレスキー

- 押すと送信、離すと受信状態となります。

(4)スピーカー

- 受信状態の時に音が出ます。
- 業務用電源(PS500JA)をご使用の際は、業務用電源(PS500JA)のスピーカーも使用できます。

(5)マイク

- 送信時は、この面に向かって話します。

(6)話中(緑) / 送信(赤)表示

- 他局が通話中の時、緑色に点灯します。
- 送信状態になった時、赤色に点灯します。
- ※無線機本体と同様の点灯表示をします。

(7)マイクハンガー

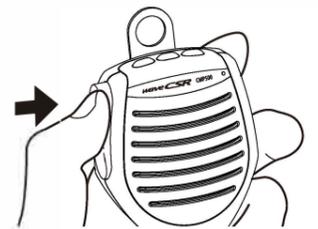
- マイク&スピーカーをマイクフックに掛けるための金具です。

送信

- 1 送信する前には必ず本体またはマイク&スピーカーの話中表示が消えていることを確かめてください。



- 2 マイクのプレスキーを押します。



- このとき本体およびマイクの送信表示(赤色)が点灯します。

- 3 マイクは、口もとから5cmぐらい離して、ゆっくり明瞭に話します。

- 4 送話が終わったら直ちにプレスキーを離します。

- このとき本体およびマイクから送信表示が消え、待受状態になります。

閉局

送受信が終わり閉局する時は、その旨を相手局(基地局または移動局)に伝えてからロータリースイッチを押して電源を切ります。電源を切ると表示部が消えます。